

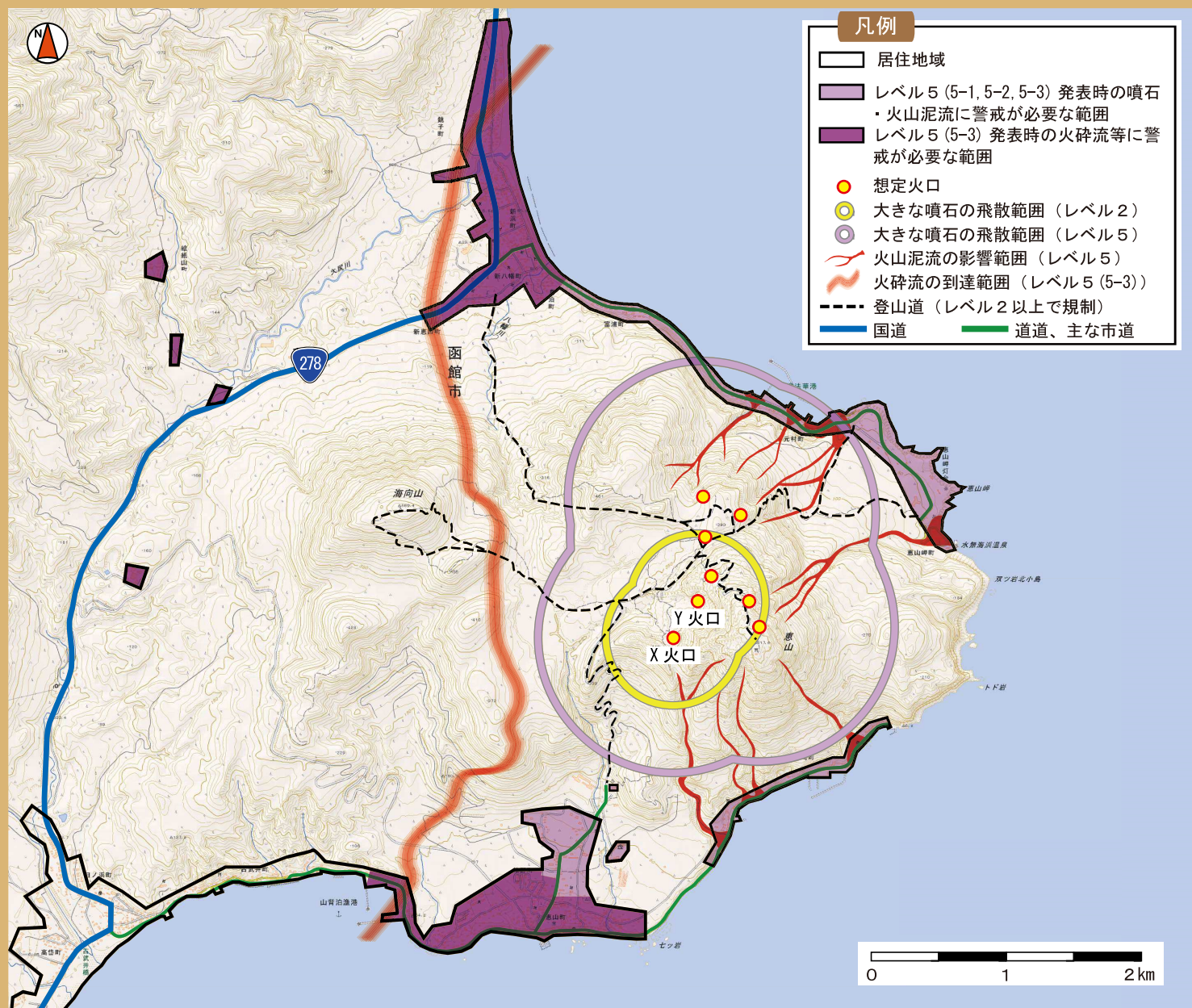
恵山の噴火警戒レベル

—火山災害から身を守るために—

噴火警報等で発表する噴火警戒レベル

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「高齢者等避難」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。
- 恵山の噴火警戒レベルは、噴火警報等でお伝えします。

恵山の噴火警戒レベルは、地元自治体等と調整して設定しました。
各レベルにおける具体的な規制範囲については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については函館市にお問い合わせください。



この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。



本冊子は、植物油インクを使用しています。



札幌管区気象台 地域火山監視・警報センター
TEL : 011-611-2421 <https://www.data.jma.go.jp/sapporo/>
函館地方気象台
TEL : 0138-46-2211 <https://www.data.jma.go.jp/hakodate-c/>
恵山火山防災協議会事務局：函館市
TEL : 0138-21-3111 <http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/>

問い合わせ先



恵山の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警戒報	噴火警戒報(居住地域)又は噴火警戒報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。 (必要に応じて対象地域や避難方法等を判断)	【5-3】 ●火砕流が居住地域まで到達し、重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫。 過去事例 約 8000 年前、約 5000 年前、約 2500 年前の噴火
			4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。	【5-2】 ●有感地震の多発や顕著な地殻変動等により、居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性が高まっている。 過去事例 なし
			3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲には入った場合は生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。 (今後の火山活動の推移に注意) 高齢者等の要配慮者の避難の準備等が必要。 入山規制等、危険な地域への立入規制等。	【5-1】 ●小規模な噴火が発生し、大きな噴石が火口から 1 km 程度まで飛散。火山泥流の発生。 過去事例 約 3000 年前、1846 年、1874 年の噴火
警戒報	噴火警戒報(火口周辺)又は火口周辺警戒報	火口から居住地域近くまで	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入っ場合は生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活 (今後の火山活動の推移に注意)。 火口周辺への立入規制等。	●有感地震の発生や熱活動の活発化等により、居住地域の一部に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される。 過去事例 なし
		火口周辺	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入っ場合は生命に危険が及ぶ)。	住民は通常の生活 (状況に応じて火山活動に関する情報収集、避難手順の確認、防災訓練への参加等)。 状況に応じて火口内への立入規制等。	【レベル3の発表について】 レベル3は、火山活動が高まっていく段階では使用せず、レベル4・5から下げる段階で状況に応じて発表する。 ●想定される現象はレベル2と同程度。 過去事例 なし
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入っ場合は生命に危険が及ぶ)。	住民は通常の生活 (状況に応じて火山活動に関する情報収集、避難手順の確認、防災訓練への参加等)。 状況に応じて火口内への立入規制等。	●ごく小規模な水蒸気噴火が発生し、大きな噴石がX火口(小地獄)、Y火口(大地獄)から 500 m 程度まで飛散。 過去事例 なし ●地震活動や熱活動の高まり等により、X火口(小地獄)、Y火口(大地獄)でごく小規模な水蒸気噴火の発生が予想される。 過去事例 なし

※ 火口とは、X火口(小地獄)及びY火口(大地獄)と限定がない場合、全ての想定火口(8つ)とする。
※ 火山泥流とは、火口から熱水が直接流出するものとする(X火口及びY火口からの泥流による影響は少ないと判断し含めない)。
※ 火砕流(若しくは火砕サージ)が発生した場合には、假法華地区全域と恵山地区の一部(御崎町・恵山町・柏野町・古武井町の一部)にかけて影響する可能性がある。
※ 「大きな噴石」とは、概ね 20cm ～ 30cm 以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散するものをいう。